

第5回城下のまち鶴岡将来構想策定委員会（会議録）

- 日 時 令和4年3月10日（木）14時00分～15時30分
- 会 場 鶴岡市役所 6階 大会議室
- 出席委員 上木 勝司委員長、矢口 哲也委員（オンライン参加）、
加藤 捷男委員、前田 直之委員、國井 英夫委員、丸山 貴光委員、
宮澤 巖委員（オンライン参加）、有地 裕之委員代理、三浦 秀人委員、
佐々木 邦夫委員、阿部 貴一委員、大久保 紀子委員（オンライン参加）
- 欠席委員 上野 隆一委員、佐藤 泰光委員、酒井 忠順委員、伊藤 秀樹委員、
秋野 公子委員
- アドバイザー 東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ氏
株式会社 umari 代表取締役 古田 秘馬氏
内閣府 クールジャパン地域プロデューサー 陳内 裕樹氏
- 事務局 市長、建設部長、企画部次長（兼）政策企画課長（兼）酒井家庄内入部
400年記念事業推進室長、企画部地域振興課長、企画部食文化創造都市推
進課長、商工観光部商工課長、商工観光部観光物産課長、建設部都市計画
課長（兼）城下のまちづくり推進室長、建設部都市計画課主幹、建設部都
市計画課都市計画専門員、建設部都市計画課専門員（都市計画係）3名、
建設部都市計画課主事（都市計画係）
- コンサル (株)国際開発コンサルタンツ 3名
(株)山形アドビューロ 2名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 8名
- 次 第
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 協議
 - (1) 構想案の提案について
「城下のまち鶴岡将来構想 鶴岡駅前地区将来ビジョン（案）」
 - (2) 質疑応答・意見交換
 4. その他
 5. 閉会

会議概要

1. 開 会

- ・建設部都市計画課主幹による開会宣言
- ・出席の確認

2. 挨拶

… 皆川市長の挨拶 …

3. 協議

議長：委員長

《委員長》

- ・前回の委員会では、事務局提案の「駅前地区のグランドデザインとその実現に向けた実行程案」について協議し、次回委員会に向けて、駅前地区整備計画の素案を事務局案を基に取りまとめること、また、プランニングチームには「学び・活動エリア」の整備計画をさらに詰めていただくことを確認した。
- ・本日の委員会では、事務局がプランニングチームによる検討の成果を含めて取りまとめた「駅前地区の将来ビジョン素案」について意見を伺いたい。
- ・なお、本委員会の第一期委員は今月末をもって任期満了となり、恐らく本日が我々の最後の委員会になると思う。

(1) 構想案の提案について「城下のまち鶴岡将来構想 鶴岡駅前地区将来ビジョン(案)」

《委員長》

- ・それでは、次第に沿い、事務局提案の「駅前地区将来ビジョン」について協議に入る。
- ・構想案については事前に各委員へ送付され、ご意見をいただいております、併せてパブリックコメントも実施した。本日提案される将来ビジョンは、事前に寄せられた意見を基にして修正・加筆されたものである。
- ・まず始めに、構想案について事務局より説明いただく。

《事務局》

… 資料についての説明 …

《委員長》

- ・なお、プランニングチームによって、駅前地区の将来のイメージ図が作成されている。アドバイザーより説明願いたい。

＜アドバイザー①＞

… 資料についての説明 …

(2) 質疑応答・意見交換

《委員長》

- ・ありがとうございました。
- ・先ほど申し上げたように、この構想案は事前送付された案を寄せられた意見を基に修正したものであり、内容を変更するような大きな修正は無く、すべて内容を補完する視点からの修正であった。
- ・まず、素案の 31 ページまでの駅前地区のグランドデザインについて意見を伺いたい。
- ・それでは、ご意見、ご質問ありますでしょうか。

《委員①》

- ・大変よく考えられている。
- ・私はショッピングモールやバス事業を展開しており、このようなまとまったにぎわい創出に対して、私の事業がいかにマッチしていけるかを考えている。また、市長の大英断もあり、私共は市と共に鶴岡市街地（旧市街）の二次交通（特に交通弱者のための交通の維持、充実）について話し合っている。
- ・庄内交通では、5 月から Suica（スイカ）と連動した IC カードとして「shokocherica（ショウコウチェリカ）」を稼働させる。それと併せて鶴岡市と私共で協議し、鶴岡市内のバス路線をもう 1 つ増やす。バスはコンパクトになるが、今まで乗入れしなかった場所にもバスが乗り入れることになる。計画通りに 10 月からスタートできれば、相当の皆様方から利用いただけると思っている。そのバスの始発点はエスマールになるため、今後は鶴岡駅を中心とした駅前地区に相当な人が流れてくる。利用者は高齢者が中心と考えるが、小さいお子様を連れた親御さんがバスを利用することもあると思う。今までの鶴岡市の常識から外れた人の流れが出来る可能性が高い。その際、乗り降りされるエリアは駅前地区である。
- ・JR とバスは、補完しあう関係にあり、鶴岡駅前に人が流れるのは必然である。この人たちをどう誘導したら、さらににぎわいが生まれて地区・市民のためになるかという点で、今回の案は展開しやすい構造になっている。
- ・現在リニューアル中のエスマールは、今月ドラックストアの開店もあり、非常に充実した拠点となる。6,000 坪の面積を有するショッピングモールだが、若者・高齢者・観光客が「学ぶ」「体験する」「鶴岡の食を良くする」というツアーの受け入れを考えていく場合、私共の施設規模としては足りない。今回の駅前マリカを中心としたイメージ図は、補完しあえる関係だと思っている。私共も昨年 6 月からクッキングスタジオをスタートさせた。この他、ワークスペースを設置し、高校生からも利用してもらっている。マリカの活用に併せてエスマールの活用を考えることで奥行きが広がると思う。描かれた絵を基に、市民のさらなる活躍をイメージするためには、実務的にどう展開していくか期待が持てるとともに、色々な話し合いが出来る素地がある。
- ・鶴岡は、二次交通の革新（キャッシュレス化と便数の大幅増加）が起きる。市民はバスの時間を気にせず、比較的安い運賃で市内を回る状況が生まれる。そういう人達が活躍できるスペースとして非常に良いプランニングだと思う。一方で、実務に落とししていくためには、より詰めなければならない。是非、一緒にやらせていただきたい。

《委員長》

- ・先を展望した大変心強いご発言である。市長はどうお考えか。

《市長》

- ・ 駅前の有効活用とともに二次交通の革新を行う。宇都宮では LRT（次世代型の路面電車）を開業するが投資コストの問題もあるようだ。鶴岡の現状を踏まえ、庄内交通等と連携して利便性を高めたい。そのなかで駅は結節点となるだろう。
- ・ 他施設と連携し、補完する関係の構築についても、今後、高校生と連携した社会実験等を展開する上で大変重要な視点だと思う。今のご意見も踏まえて取り組みたい。

《委員②》

- ・ プランニングチームのイメージ図は非常に楽しそうで、行ってみたいと思わせる雰囲気がある。
- ・ 校舎を 2 階にイメージしているようだが、本来は 1 階が良いのではないか。平場にこういうものがあつた方が、誰もがすっと入っていける。
- ・ 電車で来る方がいいが、それ以外の方達の足が致命的に悪い。お隣に立体駐車場があるが、立体駐車場は女性や高齢者へのハードルが高く、エスマールの平面駐車場では、少し遠い。
- ・ バス路線の充実については、例えば駅前とエスマールの間を 5 分間隔のシャトルバスで行き来して、移動時間を縮める手もあるのではないか。高齢者が時間を気にしながらバス停で立ち続けるのはハードルが高い。バスターミナルのように待合所を設けて、バスが来るまで座って待てる場所があれば、ハードルが低くなる。あえてバスターミナル機能はエスマールのままにして、そこの間を縮める施策があるといい。
- ・ 将来的には、その間に歩きながら行けるモールがあり、冬場でも安心して買い物ができる場所として整備できれば、皆さんが歩いて移動することもある。次の段階は、それが無いなかで、ここに集まることへのハードルをいかに下げるかを検討できれば、非常に良い計画になるのではないか。
- ・ 電車で鶴岡駅に来る高校生をイメージしていると思うが、商工会の会員企業や農業・水産業の方がここに来て高校生と繋がりを持ち、逆に高校生がその職場等に赴く場合の足も考えると、その次に期待できると感じた。このような施設が早く出来るといい。

《委員長》

- ・ 私と事務局との打ち合わせの中でも、エスマールと駅との連絡路については課題として挙がっていた。
- ・ 校舎を 1 階と 2 階のどちらに置くかも含め、事務局として、今の問題提起を今後検討すべき課題として受け止められるか。

《事務局》

- ・ 本日は構想の方向性の提案である。今後の議論の 1 つとして入れさせていただく。

《委員③》

- ・ 事務局の皆様のご苦勞を感じると同時に、ゼロベースからここまで内容が固まってきたと実感している。実際にイメージが絵になることで方向性が定まり、ワクワク、ドキドキする印象を受けた。
- ・ JR と二次交通を含めた乗り換え、エスマールのバスターミナルから鶴岡駅への移動の不便さは駅のお客様からも感じてきた。細かな事務作業は今後具体的に整理していただければいい。全体の方向としては違和感なく、鶴岡の旧市街地を盛り上げる良い

ビジョンが出来上がっているのではないか。

《委員④》

- ・バスの増便と Suica との連携は、非常に期待が持てる。駅前町内会は高齢の方が多く、歩いて行ける商業施設がどんどん減っている。その人たちがエスモールまでどう行くか。冬季は除雪された雪が歩道に残され、若い人でも歩きにくい。
- ・駅前一帯が小銭など気にせず Suica を使って無料で行き来できれば、近所のバス停からバスでエスモールに移動し、そこを拠点にさらに鶴岡の各地域にバスで移動できる。バスによる足が整えば、歩行環境を整える必要がそれ程なく、色々な対策が出来る。特にエスモールの間の道路は非常に狭く、歩くことが困難である。バスが増便されて、利用がしやすくなると、大きな解決に繋がる。
- ・道路については、以前から鶴岡市全体で生活道路と幹線道路を明確に区別する必要があると発言してきた。特に駅前は、車両のサイズに比べて道路幅が非常に狭い。昔から道が変わっていないこともあるが、観光客や高校性は駅前の中心部で柵を乗り越えて、歩いて渡る。これが良いか悪いかは別として、駅前の環境は歩く人にとって使いづらい。
- ・既存の建物を有効に利用するために 2 階をどう使うかを考えていたが、知り合いに障害を持つ方がいて、FOODEVER を車椅子で利用しようとしていた。あそこは車を寄せて車椅子から降りる場所が無いため、乗り降りするならマリカ駐車場を使った方がいい。マリカ駐車場はバリアフリー化されていて、エレベータで降りられるので車椅子で移動でき、雨も雪も関係なく利用できる。知っているか知らないかで全然違う。そういうことを発信できるような、見て分かるような環境が必要ではないか。
- ・イメージ図で非常に良いと思ったのは、窓から何をやっているかが見えることだ。今はシャッターに絵を描いているが、シャッターは「やってません」のサインである。窓から中が見える、やっていることが見える、外と繋がっていることが重要であり、非常に良いと感じた。
- ・鶴岡市と全体的に繋がる。例えばあつみ温泉や湯田川や朝日地域等、色んな所で色んなことをやっている様子が駅に来ると見える、あるいはそこに行きたくなる。実際には駅前からバスに乗って繋がる。オンラインとリアルとの相乗効果が生まれるような施設だといえると思う。
- ・イメージの外観イラストでは、マリカの 2 階に渡り廊下があるのか、1 階を歩いているか判別できないが、そこに車椅子と歩いている人がいる。普段から 2 階を通過できるようなルートを持ってくれば、気軽にその前を通過して、色々見ることが出来る環境ができる。例えば、JR で新潟方面から来た人は、大半が 2 階の渡り廊下を通っている。駅の渡り廊下と連携して入ることが出来れば、行こうと思わなくてもそこを通る環境が出来る。そこを歩いた時に鶴岡の全貌が見えると、なおい。別にトンネルのように建物で全部閉じていなくても、歩道橋や屋根だけある状態でもいい。
- ・ジャスコ跡地の活用について、非常に良いイラストになっている。資料 38 ページの写真では、ジャスコ跡地にステージや商業施設があったが、コンクリートを作るのはいかがなものかと思っていた。このイラストのように色んな形に使えるものが短期的には良い。特にこの場所は冬季に鶴岡駅前の町内で除雪した雪を排雪する場所として使っている。冬季間は使えなくなる上、除雪・排雪のときに建物は不利だと思う。イラストのようなキッチンカーや車が乗入れできるような状態にするためには、芝生にしない方がいい。

《委員⑤》

- ・プランニングは非常に素晴らしい。4つのエリア分けは大変良い分け方だ。「にぎわい・発信エリア」については、駅前とエスモールの間をうまく繋げて、駅前に集まればそのままエスモールまで行けるようなものを検討していただきたい。それによって周遊が生まれ、より多くのにぎわいが広がると思う。駅前は観光、交通の拠点である。駅前は観光地の情報が入ることが常識になっている。車で来る人もいるが、これからは高齢者の時代である。高齢者や子育てしている家族、観光客、高校生との交わりがあったが、高齢者の足を確保するためにはバスが非常に大事になる。いかに鶴岡市内を周遊するバスを増やし、利便性を高めるかが非常に大切になってくる。交通網の整備もよろしくお願したい。
- ・私も高齢者の1人だが、高齢者は若い人達と接することで活力が出てくる。そんな意味合いで「憩い・交流のエリア」は駅前にいけば「ほっとする」「若い人達と一緒に何かしたい」「ゆっくりしたい」ということだと思ふ。ジャスコ跡地を庭園にしてはどうか。まちなかで自然に触れられる森や庭園があることも夢みていた。まちなかに自然のある、眺めの良い憩いの場があるといい。イラストを見ても楽しそうで、非常に素晴らしい。憩いの場となるような、自然に触れられるような企画をしてほしい。全体的にも非常に素晴らしい計画だと思う。出来ることからどんどん進めてほしい。

《委員長》

- ・構想案のグランドデザインに関して意見をいただいた。協議をひとまずここまでとし、一旦採決したい。グランドデザインについて異議なしと考えてよいか。
- ・無いようなので、承認とさせていただきます。
- ・引き続き32ページ以降の「学び・活動エリア拠点の整備・運営の考え方」について協議する。この点についてはプランニングチームにリードしてもらい検討してきたので、まずプランニングチームより事業展開における取組方法や考え方などお話しいただきたい。

＜アドバイザー①＞

- ・様々な専門家が集まり、この夢のプランをどう実現していくか検討してきた。
- ・他の地域で地域活動を事業化しているアドバイザーから願する。

＜アドバイザー②＞

- ・私自身は、東京に「丸の内朝大学」という市民が参加する大学や、瀬戸内に「URASHIMA VILLAGE」という地域の皆で作るホテル、暮らしの大学という市民参画型の大学を作った。
- ・我々が注目しているのは「自助・公助・共助」の共助という部分である。そのなかには、今日の皆さんが話していた交通、エネルギー、医療、介護、教育がある。これらは一業界だけで出来ることでも行政に全部頼る話でもなく、民間一手で頑張ることもなかなか出来ない。そういったなかで、皆で力を出し合い、協力することがトレンドになっていて、そうしていかないと地域自体が立ち行かない地域が多くなっている。そういったところとたくさん関わらせていただいている。今回は、まさに共助だと思っている。ある一社が、一社のために使うことでもなく、行政がやり過ぎてしまうと誰のものでもなくなってしまう。そういったなかで、今回は令和の学びの場を作る。

老若男女が集える場だが、高校生たちが来ることで、まちの部室のようになり、共通の趣味の人達とたくさん出会うことで非常に面白いことが起きてくると思っている。

- ・ポイントは従来型の指定管理のようにどこか一社にお願いするのではなく、皆さんが参画していくことである。
- ・我々が関わった瀬戸内の父母ヶ浜はウユニ塩湖のようになることで有名な場所だが、今から5年前は年間5,500人くらいしか来ない場所だった。そこで、指定管理のように行政からお金を貰わず、自分たちで家賃を払いながら管理しつつも、しっかりと稼げるモデルを作った。一言だけご案内すると、街から外れた公衆トイレしかないような場所を皆でリノベーションして、地元のメンバーを中心に外の会社、地元スーパーの三代目、地元の業者でワークショップなどを皆で行い、1個ずつ皆が商売できるような仕組みを作っていた。その後、この場所がウユニ塩湖のような景色になると話題になり、今では年間約45万人が来ている。しかも、それが一過性のものではなく、そのなかで色々な人達に関わり、さらに新しいビジネスが生まれる。新しい学生たちも集まっていて、今では慶応のSFCや東大のゼミチームがここに入ってくる。
- ・どなたが管理運営されるかはまだ決まっていないが、行政も市民の方も含めて、「こういうプランをしました、誰かがやってくれるでしょ」ではなく、いかに皆さんが一緒に汗をかいて、皆で作ってあげていくことがひとつの重要なポイントになる。
- ・地元だけでなく、これまで鶴岡に関わった人もデジタル上で参加し、定期的に関わる。または、授業を世界中からも受けられる。多くの高校生が転出して終わりではなく、その後も関わっていく。そのように人が循環していくことが重要ではないか。
- ・香川県の三豊市は5万人位の小さな都市だが、ここ2年程度で30社ほど会社が出来て、色んなプロジェクトやお店も出来ている。ただ待つだけでなく、その場所がエネルギーを生むきっかけになればいいと思っている。

<アドバイザー③>

- ・この計画は、皆様がおっしゃるようにまちづくりをやっていくことが極めて重要になってくる。岸田内閣では、デジタル田園都市国家構想を柱としていて、全国のまちづくりにバーチャル（デジタル）もうまく組み合わせることで稼いで、幸せを作っていくとする計画がある。これにうまく対応されると、色々な意味で有利になる。交付金をうまく使えば、実証実験の場として全国からも視察が来る。
- ・そのために、尖がっていく必要がある。鶴岡らしい食はユネスコにも選ばれており、世界で勝負できると思う。来年から始まる計画の中身を逆算して、なりたいビジョンにするために最初に何をやるべきかを具体的に考えてほしい。誰向けに、どんな事業をどのように組み立てていくか。この後の一歩が非常に重要である。
- ・定住人口が減り続けるのは間違いないが、人口が減っても幸せがますます広がる鶴岡を目指す。そのために、関係人口をいかに稼いでいくかが重要である。定住人口は高齢化が進んでも、皆さんが幸せになっていくために、デジタルでどういうことをやればいいのか。来年以降は、デジタルや関係人口の専門家を加えてほしい。例えば、高校生や関係人口代表として外国の方を入れた方がいい。メンバーにどんな方を入れて、良いまちづくりが実行できるかを考えられるといい。
- ・国の方針で、経済効果から幸せを評価する際は「ウェルビーイング指標」というまちづくり指標に代わることになっている。その後の情報をうまく提示したい。

<<委員長>>

- ・それでは、ご意見、ご質問がありましたらどうぞ。

《委員⑥》

- ・駅前に集う高校生を中心としながら、「郷土愛の高まり、シビックプライドの醸成により将来的な関係人口の増加を目指す」という非常に画期的なビジョンを作っていた。
- ・大人からの押し付けになってしまうと難しいため、高校生の主張を尊重することが重要ではないか。
- ・地元の大人たちに自分事として関わっていただくことが非常に重要であり、どのようにしていくかは社会実験等で内容を詰めていってほしい。
- ・「学び・活動エリア」の他にもエリアがあり、全体的にまとめてほしい。この計画はハードだけでなく、ソフトも重要だ。せっかく令和の藩校というコンセプトがあるため、今後は拓げていくことになるという。
- ・関係者が増えていくため大変だとは思いますが、URとしても協力していきたい。

《委員⑦》

- ・とてもよくまとまっている。
- ・このビジョンについて時間軸で整理したい。すぐ出来ること・中期的に考えていくこと・長期的に考えなければならないことがあるが、少し整理しながら、このビジョンを実現していただくと良い。
- ・短期的には社会実験を行うが、柔軟な発想を得るために高校生の意見を取り上げてほしい。
- ・中期的には、敷地の活用を計画していくため、「まちの顔づくり」や「鶴岡市のゲートウェイづくり」をする作業になる。報告書の13ページに掲載されているマリカ周辺の低未利用地へ波及するように考えていくと面白い。エスマールの接続について議論があったが、JAの倉庫跡地についても中期的には考えていく必要があるのではないか。皆様の意見からは、交通や移動の問題が今後大きな課題となることがうかがえる。中期の課題として、きちんと解きほぐしていくべきである。私も2年前に鶴岡市公共交通再編のプロジェクトに携わったため、何かお力になることがあれば、協力したい。
- ・長期的な視点としては「関わり続ける仕組みづくり」が重要ではないか。加藤委員の話していたように「用が無くても立ち寄れる場所」になってくれれば、持続的に関わり続ける人が徐々に増えていくのではないか。

《委員⑧》

- ・ビジョンはとても素敵だが、高校生の柔軟な発想を受け止められる大人の存在も大事だと思う。今後、その辺りを詰めなければ素敵なビジョンは出来上がらないと思う。
- ・イメージ図では校舎が2階にある。2階は見えないという話はあったが、大型スクリーンを駅に置くという案もあったと思う。2階に上がるのは大変だと思うので、楽しそうに思えるような仕組みを作らないといけない。
- ・また、金沢駅前のようにバスが通ってくれると有難い。県内でも米沢市が周遊バスを走らせている。その辺りも見ながら、もう少し素敵な交通網が出来ればいい。高校生が集まってきて、市内各地を自由に回れる。お年寄りだけでなく、高校生自体も色々な場所で活躍できる交通網が出来るといい。

《委員長》

- ・時間も限られてきたので、以上で協議を終了したい。それでは、「学び・活動エリア拠点の整備・運営の考え方」を含めて、事務局提出の「城下のまち鶴岡将来構想 鶴岡駅前地区将来ビジョン（案）」を本委員会における審議の総まとめとして了解いただけるか。
（全員了承）
- ・以上をもって、本委員会第一期委員による協議の総まとめとして、鶴岡駅前地区将来ビジョンが確認された。
- ・最後に、アドバイザーと市長より一言お願いしたい。

＜アドバイザー①＞

- ・委員長及び委員の皆様へ感謝申し上げます。
- ・最初に市長からアドバイザーとしてご依頼をいただいた際に「『今のまちに必要な物』を作るのではなく、『将来も使っていける物』を作るまちづくりのアイデア出しであればお手伝いできる」とお話しした。頑固にそのようなプランで進めさせていただいたが、街の事業者の皆さんとそれぞれの事業の将来を見据えたお話に結び付けてお話することが出来て非常に良かった。概念的なまちづくりの提案だが、マリカの改装工事の際は、一体的なデザインとして当てはめていただきたい。
- ・新しいまちづくりのあり方は、単純な指定管理や大手代理店が他県で成功したものをそのまま売りに来るのではなく、まちの皆さんが作っていける構造をデザインすることから始まるのではないかと考えている。私たちも専門家でありながら、非常に考えさせられるテーマだった。今後とも、鶴岡市の皆さんと何かの形で関わりたい。

《市長》

- ・行政として老朽化しつつある施設の課題解決を図るための計画であったが、アドバイザーのお話の通り、将来使っていける物をどう生み出していくかという観点を持ち、短期・中期・長期の視点で検討した。施設がまだ活用できるとはっきりしたため、それを踏まえて、この委員会の取りまとめを実現させるよう、今後しっかり取り組んでいきたい。
- ・この委員会を通じて、鶴岡駅を使っているのは6割が高校生だと判明した。令和6年には鶴岡に中高一貫校が開校する。二次交通の革新等もあいまって、人の流れも良い方向に変えていかなければならない。
- ・将来を担う高校生の皆さんに引き続き柔軟な発想を伺い、駅前をはじめとした鶴岡のまちづくりに反映させていくことが大変重要だと分かった。行政が気付かない視点を委員の皆様、アドバイザーの皆様からいただき、デジタル活用も含めた暮らしやすいまちづくりに繋がっていくと思っている。
- ・新年度の予算審議中だが実証実験等にも取り組む予定である。今日の資料によれば短期は5年としているが、令和6年に中高一貫校が開校するため、少し前倒して先に繋がりたい。今後も委員の皆様に進捗を報告したい。皆様本当にありがとうございました。

《委員長》

- ・最後に、私から一言申し上げたい。
- ・一昨年7月の第1回委員会以来、委員の皆様には意欲的に議論を重ねていただき、

プランニングチームには、とりわけ「学び・活動エリア」の整備に関わり、委員会の議論を強力にリードしていただいた。事務局には、「鶴岡駅前地区将来ビジョン」の策定に向けて、委員会の審議を強く後押ししていただいた。本委員会の委員長として皆様に心より御礼を申し上げます。

- ・以上をもって、本日の協議を終了させていただく。

《建設部長》

- ・委員長、スムーズに闊達なご議論に導いていただき、ありがとうございました。
- ・事務局から1点、報告がある。

進行：事務局へ

4. その他

《事務局》

- ・「城下のまち鶴岡将来構想 鶴岡駅前地区将来ビジョン(案)」をご承認いただき、誠にありがとうございます。
- ・最後の校正は委員長と相談して最終的な冊子として取りまとめたい。ご了承をお願いする。また完成後は、委員長、アドバイザーより市長へ報告という形を取らせていただく。

5. 閉会

- ・都市計画課主幹による閉会宣言